

10. 「次なる山へ」

神戸シルバー大学院（SGS）が、平成15年に神戸シルバーカレッジ（KSC）の卒業生有志と神戸大学名誉教授の保田茂先生により設立されてから、平成24年で10年目の節目を迎えることになりました。

これは一重に、SGSの先輩諸氏、行政の方、教育関係の方、農林漁業関係の方、食料関係の方々などの暖かいご支援があつてのことと、お礼申し上げます。

“さらに学んで次世代のために”をモットーに、環境、農林漁業、食料、教育、時事問題等を学びながら活動し、ボランティア活動も積極的に参加してきました。

当初の学生は、KSCの生活環境コースの卒業生が主体でしたが、現在は国際、福祉、食文など全コースに渡つての卒業生で、60余名の院生が元気に楽しく学習・活動しています。

具体的な内容としては、保田先生による月1回の講義、特別講師による月1回の講義、その時の重要な時事問題も学んでいます。また、年2回の研修旅行を実施し、特に農林漁業関係について、現地で見聞を広めています。

院生によるグループ学習にも、上記の関係する研究テーマで活動し、年1回の研究発表会を学外で関係者を招いて開催しています。グループ学習内容の報告として、農林漁業、食料などの現状と問題点、改善事項の提言を行っています。

また、ボランティア活動も積極的に参加してきました。農村での米作り、野菜作りの協同作業、大屋町のごちそう祭りの支援活動、コウノトリ飼育の支援、東日本震災への支援、小学校への環境教育支援活動などを実施してきました。村や学校や支援先から、うれしい感謝の言葉も頂きました。

SGSの学習活動が定着したことより、一つの山を越えたと思われまます。

現在は、グローバルな世界になって社会情勢の変化は激しく、色々な課題が山積しています。

少子高齢化が進み、農村、漁村の衰退、山林の荒廃、医療費の高騰、成人・若者の就職難などがあります。

地球温暖化による異常気象、台風、洪水、干ばつ等大型の自然災害発生、地球環境変化による生物多様性の生態系変化の問題もあります。また、原発事故発生による放射能汚染とその処理等など多岐に渡っています。

しかし、生物は生存し、人は社会生活を過ごしていかなければなりません。これからの未来へ“次なる山へ”。私達SGSが、どう進むべきかを考えてみようではありませんか。

次に、3つの提言をいたします。

目標を持っている人ほど、心身ともに健康で長生きできると言われています。私達高齢者こそ、目標をもって本当にやりたかったことを学び、活動して、成長し続けたいものです。

1. 地域再生ふるさとづくりへ

地域を再生するには、大都市集中ではなく地域の活性化が必要です。特に、農村、漁村の再生が重要です。

休耕田の活用、河川・湖・沼の水辺、里山、里海の再生が農漁村のふるさとの活性化になり、あわせて有機栽培を広めることも、生物多様性の保存維持につながります。

農村、漁村に入り協同作業をしながら、先駆者となって、その地域に合ったしくみを村民と共同でつくりあげる。それが、村を、地域を活性化し、ふるさとをつくり上げると考えられます。定年後、都会から農村に住み込み、日本のふるさと再生を成し遂げた中国地方の成功した事例が報告されています。

2. 食育再生と食料自給率向上へ

子供も若者も、大人を見て自分の価値観を形成すると言われます。まず、私達大人が日本人に合った食事即ち、ごはん・有機野菜・まめ・さかな・海藻をおいしく食べることでと思います。そのおいしさと日本人のからだの健康によいことを孫に、学校のボランティアに行った時に、話しすることが食育につながります。そして、心身ともに健康な若者に育ってほしいと思います。

それが、食の環境を改善し、農村、漁村が活性化し、6次産業（生産・加工・サービス）化の発展につながり、雇用の改善、食料自給率（現在40%）の向上につながると考えられます。

日本食をよるこんで食べる姿を示し、日常生活の中で、孫に、学校で、研究発表で、そのよい点を伝えていきましょう。

3. 自然エネルギーの活用へ

化石燃料（石炭、石油）が枯渇すると言われてから久しい。また、原発事故による放射能汚染は、人間や生物に甚大な被害と悪影響を及ぼしています。

無尽蔵にある自然エネルギー源の太陽光・風力・水力・潮力・地熱・バイオマス等を再生エネルギーとして使用を広めていくことが、自然な流れと考えられます。

そうすることにより、きれいな空気、美しい水が保たれ、地球温暖化防止に役立ち、異常気象による巨大台風や多雨による自然災害も減り、放射能汚染も無くなります。

なんとといっても、世界中の誰でもが平等に利用でき、正しい使い方をすれば、人類や生物に害を及ぼさず“よい地球環境を永久に維持できる”と言えることだと思います。

再生エネルギーへの100%移行は、30年以内に可能であるとの説があります。

また、私達高齢者が子供のときより学んできた、日本人の美德である“もったいない精神”を活かし、エネルギーの大量消費や無駄使いをしない生活スタイルを築いていくのも大切です。

この自然エネルギーについて、さらによく学習し、日常生活の中で出来ることから実施し、よいと思えることを社会に、また研究発表会を通じて発信していくことが重要です。

世代や地域を越えた交流が、中高年の心身を若返らせます。目標を持っての学習・グループ学習やボランティア活動に積極的に参加し“健やかな生きがいを感じられる生き方”をしたいものです。その大人の姿をみて、次世代の子供や若者が、夢を膨らませてくれるでしょう。そして、高齢化社会の生き方のよい一つのモデルになればと念じています。

“さらに学んで次世代のために”さらに学習し活動を充実して行こうではありませんか。

今後とも、各位におかれましてSGSへのご理解と暖かいご支援を、お願い致します。

以上

H25. 2. 5 山川 好弘